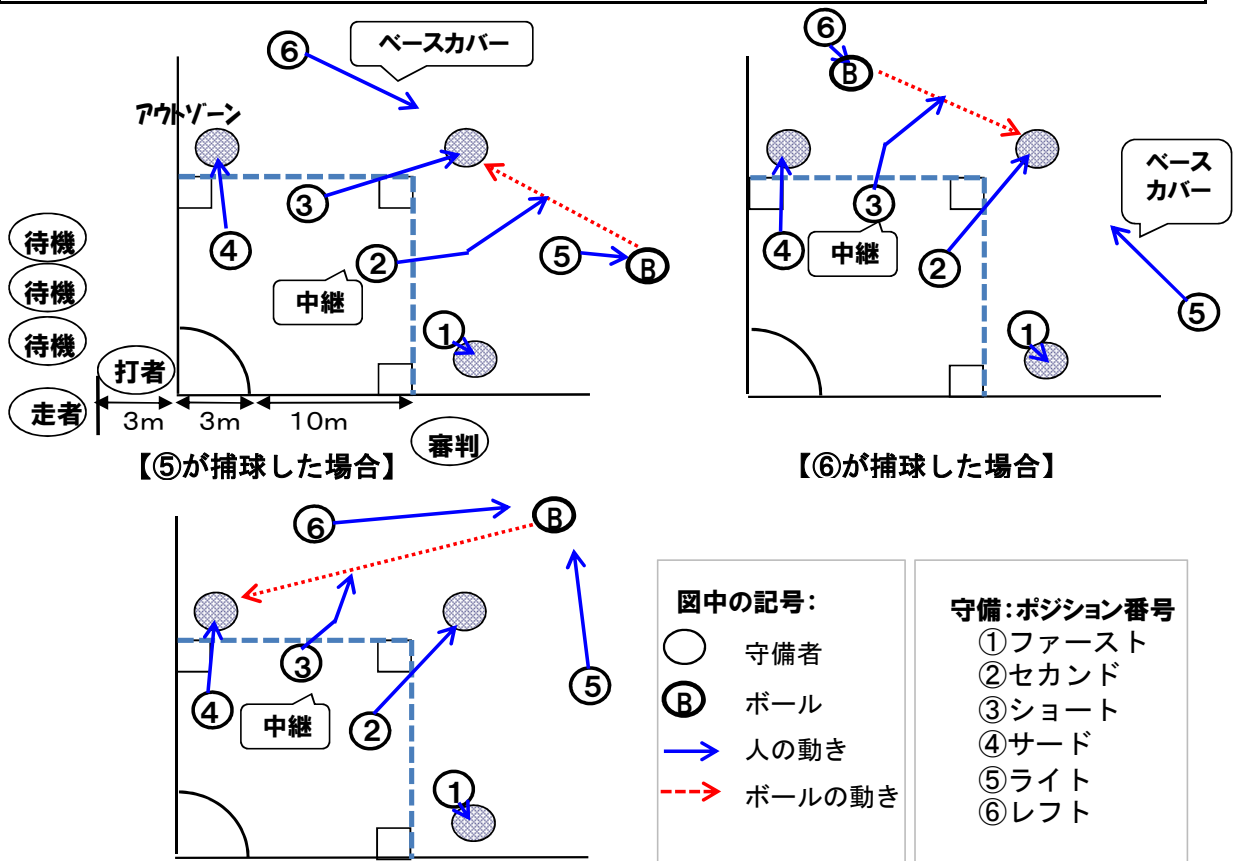


6対6内野・外野関係ゲーム（手投げ）

ねらい	内野と外野の動きを理解し、内野と外野の関係プレーをする技能を身につける。
時間	15分間
準備	バッティングティー、ティーボール、バット、塁ベース、フラフープ（アウトゾーン用）、ビブス、（得点板）



【⑤と⑥の間にボールが飛んだ場合】

やり方	<p>① 攻撃は、打者→走者→審判→待機→待機→待機の順でローテーションをする。</p> <p>② 打者は、ゲーム中にボールが飛ぶコースを考えて、意図した場所に手でボールを投げる。 (ボールを投げる時は、外野まで届く位置まで前にもよい。)</p> <p>③ 6人が1回ずつ投げたら攻守交代をし、1イニングを行う。</p> <p>④ 走者は、1塁、2塁、3塁の順に走る。 (3塁まで/打者走者分離/残塁なし)</p> <p>⑤ 守備者は、ボールを捕ったら走者より先のアウトゾーンにボールを送球送球することで進塁を阻止する。 (守備者は、ボールが打たれるまでは定位置にいること。)</p> <p>⑥ 進塁できた塁までを得点とする。最初は得点を競わず、内野や外野の関係プレーの確認を重視し、慣れてきたら、得点を競い合ってもよい。)</p>
-----	--

「6対6内野・外野連係ゲーム（手投げ）」の説明

1. 準備

バッティングティー、ティーボール、バット、塁ベース、フラフープ（アウトゾーン用）、ビブス、（得点板）

2. 「6対6内野・外野連係ゲーム（手投げ）」の進め方

- ①これから、チーム内で6対6内野・外野連係ゲームを行います。
- ②攻撃は、打者→走者→審判→待機→待機→待機の順でローテーションをします。
- ③打者は、ゲーム中にボールが飛ぶコースを考えて、手でボールを投げ入れます。（投げる時は、外野まで十分に届く位置まで前に出てよい。）
- ④走者は、打者がボールを投げ入れたら、1塁、2塁、3塁の順に走ります。（3塁まで／打者走者分離／残塁なし）
- ⑤守備者はボールを捕ったら、走者より先のアウトゾーンにボールを送球することで進塁を阻止します。ただし、走者が1、2塁間にいるときに、3塁のアウトゾーンに投げるだけでは、走者は2塁まで進塁することができます。（守備者は、ボールが投げられる前は、定位置にいること。）
- ⑥捕ったボールは直接アウトゾーンに持ち込むことはせず、アウトゾーンに移動した他の守備者に送球することとします。また、ノーバウンドでボールを捕ったら0点ですが、必ず近くのアウトゾーンに送球することとします。
- ⑦進塁できた塁までを得点とします。（最初は得点を競わず、内野の連係プレーの確認を重視し、慣れてきたら、得点を競い合ってもよい。）
- ⑧6人が1回ずつ投げたら攻守交代し、1イニングを行います。（守備パターン3種類を2回ずつ練習できるように、意図的に投げる。）

※いろいろなポジションを経験できるように、打者2人ごとに守備位置をローテーションし、さらに1時間ごとにAとBを入れ替える。

例) A【図①→②→⑤】 ・ B【図④→③→⑥】

※1チームが12人未満の場合は、守備者を常に6人確保し、残りの人数を攻撃側にまわす。

例) 6人の場合：1塁手をなくし、1人を打者走者にする。

7人の場合：1人を打者走者にする。

8人の場合：1人を打者、1人を走者にする。

【発展】

- ・「手投げ」を「バット打ち」にする。そのときには、思い切り打つことよりも、ねらったところに打って連係プレーの練習ができるようにする。